

# 「夢をあきらめないで。未来を見よう」

だから、普段の生活の中で子育ての中で、学校教育現場の中に、家庭で社会で子どもたちに温かい愛情のシャワーをいっぱい浴びせたいですね。

## みんなつながっている

六年生になって卒業する時、子どもたちに言いました。「今、このクラス三十五人おるな。この中で人間のいい順にお前ら並べ」

「先生何言うてんねん。先生はこの一年間、『人間には良いところと悪いところがあつて、人間には順位が決められへん』で、いつも言うてきたやんか。それはウソか?」「ウソ違う、それはほんまや。さあ!並んでもらおうか!」「だれが良い人間で、悪い人間か、立ち上がつて言うてみい」ある子が、立ち上がつて、「このクラスには悪い子は一人もいません」と泣きながら言うんです。「そうや、そうや、先生何言うてんや、先生なんか嫌いや」と次々に周りの子が言つて、大騒ぎになつて、でもまだ、「さつさと並べ!出来ひんの人

やったら帰れ!」と言つて、子どもを帰らせました。

子どもが帰つて学校であつたことを報告すると、親はごつつう怒らはつたんですね。

「なんちゅう先生や!仲島先生はいい先生や思うたけどひどい先生やな!」

子どもたちの日記を見たらもつとすごいことが書いてありました。

「昨日まで先生のこと好きやつたけど、もう嫌いになりました。早くどつかの学校に替わつてください」

「昨日まではお世話になりましたが、今日からはお世話になりません」

でも僕は、「さあ、昨日の続きするぞ。これが出来ひんと卒業出来ひんぞ」

そう言うときさすがに子どもはおかしい:と思ひ始めるんですね。

ある子に「先生、邪魔やから、職員室帰つておいて」と言つて追い出されました。そして、一時間ぐらい経つて、「先生出来たで」と言つて呼びに来ました。

「どうかな:と思つて教室に入つてみると、真ん中を広く

して男女が交互になつて中を向いて一つの円になつて待つていてくれました。その円の中に入つて行つて、「だれが一番ええ人間や?」と聞くと三十五人みんな一斉に手を上げる。

「だれが一番悪い人間なん?」と聞くとみんな目を合

わせながら、スーッとみんな手を上げました。

「そうや、その通りや。これでみんな全員、無事卒業やな。よう考えたなあ。今こうして三十五人が一つの円になつて、みんなよう見てみ!自分以外の三十四人の顔がよう見えるやろ。いろんな辛いことがあつたけどみんな一つの輪になつて乗り越えてきたやろ。これから中学校、高校、社会人になつていく中で、しんどい時が絶対ある。でもそんな時みんな輪になつて乗り越えてきたこと思い出すんや。そして中学校や高校、社会人になつても新しい輪をつくつて協力していくんやで。家庭で地域で輪をつくるんや。家族で輪をつくれるお父さん、お母さんになろうな。人間一人

やったらしんどいけど、辛いことも乗り越えていけるんや。

「先生に会えてよかったわ」うれしいですね。でもそうなんです。「あー、よかったな。あなたがいて」と思える人生、子育てをしたいですね。みなさんも、子どもが小学生以下

だつたら十秒抱きしめてやつて言つてやつてください。中学生になつたら言葉だけでも「あなたがいてよかった」と言つてください。夫婦間でも、おじいさんやおばあさんにも言つてください。

「あーよかったな あなた

といて。ワタシ 幸せ!」

「先生に会えてよかったわ」

